

# 寝屋川市香里園駅周辺地区まちづくり構想

## 目次

はじめに	1
1. まちの歴史と経過	2
2. まちの課題とまちの将来像	4
3. まちづくり施策	6
4. まちづくり構想	8
5. 今後の取り組み	10

平成20年2月

寝屋川市

## はじめに

京阪香里園駅周辺地区では、駅の西側については都市計画道路香里駅前線や駅前広場が完成し、東側については本市の北核に相応しい魅力あるまちづくりを目指し、現在、市街地再開発事業が進められています。

また、近年、国道 170 号等沿道の工場跡地などでは、大型商業施設やマンションに土地利用が転換され、密集市街地においても建て替えや主要生活道路の整備等、住環境整備が徐々に進んでいます。

さらに、現在、まちの分断要素となっている京阪本線について、連続立体交差事業の調査・検討を進めています。

このように、まちの“顔”を創る基盤の整備が進むとともに、まちの様相が大きく変わりつつある京阪香里園駅周辺地区において、産学公民が連携・協働してまちづくりを推進するためには、めざすべき共通の将来像が必要です。

この「まちづくり構想」は、産学公民が連携・協働して京阪香里園駅周辺地区のまちづくりを推進するために、まちづくりの第 1 歩としてとりまとめたものです。

## 1. まちの歴史と経過

香里園の周辺が開かれたのは、応神・仁徳天皇の頃と言われており、友呂岐神社には応神天皇が祭られています。ともろぎの名は、応神天皇が生まれつき立派な体格で、弓を射る時の皮の手袋である「鞆」が所以とされています。友は鞆、呂岐はこの日本をお治めになる立派な男の神様という古語で、香里園の一带は旧友呂岐村に属し、友呂岐は鞆呂岐とも書き、すでに平安の昔、皇室の所領として、友呂岐荘の名をとどめています。

また、応神天皇の御子の仁徳天皇の時に行われた淀川堤防修築の治水大事業とともに、その後の難波発展の原点となった一带の耕地整理も行われました。

この穀倉地帯の中心に茨田の屯倉\*<sup>1</sup>が置かれ、春米部\*<sup>2</sup>が定められ、その政治の中心となる役所が郡で、今も香里園駅すぐ近くに「郡元町」という地名が残っています。

\*<sup>1</sup>仁徳天皇 13 年の条（『日本書紀』）には茨田の屯倉が設けられ、この地域一帯が朝廷によって管理・運営されたことが記されています。



茨田堤（まんだのつつみ）石碑

淀川の堤防の上で太間公園を見下ろす場所にあります。仁徳天皇の時代につくられた日本最初の河川堤防といわれています。



香里園の歴史を物語る「友呂岐神社」

\*<sup>2</sup>仁徳天皇の時代には米搗き（玄米について精白する）の専門家として屯倉春米部という官職がおかれていた。

「香里園」という地名の由来は、京阪電車が通る際に遊園地の建設を行い郡遊園としていたが、あまり流行らなかったため、明治43年に第1回菊人形が開催される会場の名前を決める際に、阪神電車の遊園地として繁栄していた香櫨園を真似、当時、香里園周辺が友呂岐村大字郡であったことからその名をかけて「香里園」にしようということで決まったと言われています。



なお、香里園での菊人形開催はすぐに終わり、大正元年に枚方に場所を替え、枚方パークにおいて開催されるようになりました。なお、枚方パークでの菊人形については、職人の不足などにより、惜しまれながらも、平成17年12月の開催で最後となりました。

このような由来の中で、現在、香里園駅周辺の市街地は、京阪本線やその鉄道と併走する府道八尾枚方線を境として、地形的にも、コミュニティも“東側”と“西側”に分かれ、それぞれ特色のある市街地が形成されています。

東側の市街地は、古くからの旧集落とともに、後背には、昭和初期から電鉄会社系の京阪土地株式会社により、住宅地として本格的に開発され、閑静な住宅地として発展してきました。

その後、昭和30年代から始まる我が国の高度経済成長による大都市への人口集中に伴い、東側では、昭和30年代に日本住宅公団により建設された「香里団地（枚方市）」をはじめ、三井団地などの公的な開発を中心に市街地が形成されてきました。

一方、西側の市街地は、昭和40年代以降、駅を中心として木造共同賃貸住宅が無秩序に建設され、その後も、昭和50年代に入ってもミニ開発住宅地などの建設が進み、密集市街地が形成されてきました。

近年は、国道170号沿道などの工場等跡地において、マンションなどが建設されるとともに、密集市街地での建て替えも徐々に進んできています。

平成15年4月には、都市計画道路香里駅前線の整備と合わせ西側駅前広場が完成し、同時に、京阪寝屋川市駅と香里園駅を連絡するコミュニティバス“タウンくる（京阪バス）”が運行されました。この西側駅前広場の整備後の駅西側周辺では高層マンションの立地も進んでいます。



香里園駅周辺の商店街は、その周辺をとりまく市街地の人口増加を背景に繁栄をしてきました。

昭和40年代には駅の近くに“ダイエー”が出店するとともに、昭和50年代には、郊外型ショッピングセンターでもある“グリーンシティ”が国道170号（大阪外環状線）沿道に出店し、消費者の買い物動向にも影響が出始めました。



さらに、近年では、京阪香里園駅から少し離れた国道170号等沿道の大規模工場跡地などに、“アルプラザ”や“ホームズ”（ホームセンター）などが進出するとともに、西側駅前にもライフが出店しています。

その一方で、平成17年には、“ダイエー”が撤退するなど、京阪香里園駅周辺の商業形態も大きく変化してきました。

また、京阪香里園駅前の関西医科大学附属香里病院を中心とした街区において、市街地再開発事業が着手されています。この関西医科大学附属香里病院は、現在、休院中となっていますが、再開発事業により、再び、香里園の地に病院が建設される予定となっています。



駅西側ではマンションなどの建設が続いています。

#### ■京阪香里園駅周辺地区の歴史資源や施設



成田山不動尊



聖母女学院



幹線水路の桜並木



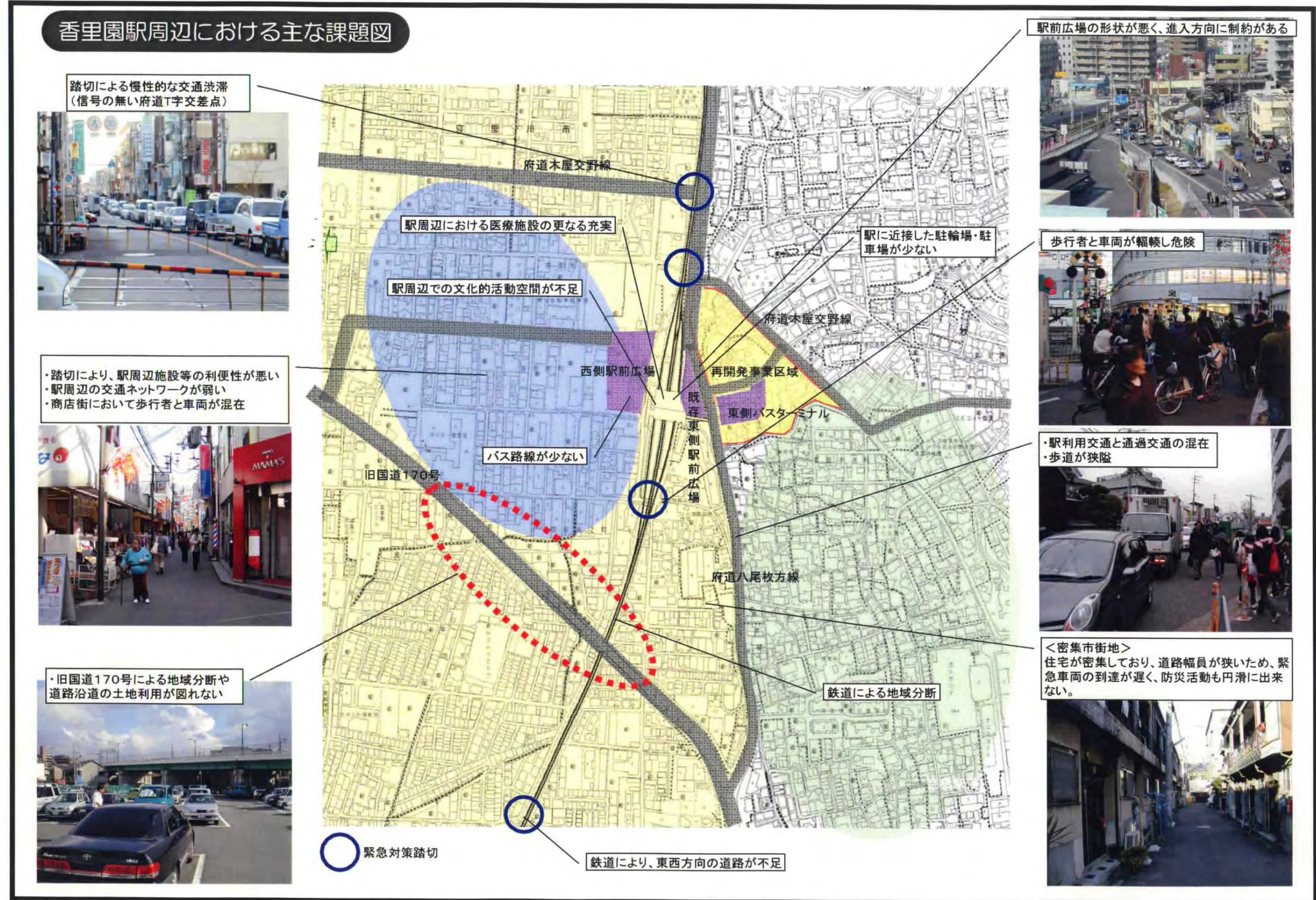
淀川河川公園（太間地区）

京阪香里園駅周辺地区は、めまぐるしい変化をしています。今後も、住み良い、活気あるまちとして発展していくために、香里園の歴史を物語る歴史的資産などを大切にしながら、まちづくりの課題を踏まえて将来の姿の実現をめざし、まちづくりを住民、事業者、行政の協働によるまちづくりを推進していくことが必要です。



## 2. まちの課題とまちの将来像

香里園駅周辺地区のまちの特徴や課題を抽出し、主な内容を下図に整理しました。





まちの特徴や課題を踏まえ、まちの将来像を「きれいなまち、心が通う香里園」としました。さらに、まちの課題を解消し、まちの将来像を実現するために、「①まちの特徴を活かしたまちづくり」など、12項目のまちづくりの方向性（テーマ）を設定しました。

京阪香里園駅周辺地区の特徴や課題は…

■香里園のイメージや特徴について

- ・山手と平地があり、気楽で気さくなイメージと山手の閑静な住宅地のイメージの両面がある。また、鉄道や道路により、東西、南北に地域が分断されている。
- ・成田山不動尊や学校、淀川河川公園など歴史や文化、水や緑の資源がある。

■都市防災面では…

- ・地震時において、木造密集住宅等における耐震・耐火性が懸念され、また、狭隘な道路により防災活動が円滑にできない箇所がある。

■防犯（治安）面では…

- ・更なるまちの治安向上が必要である。

■保健・医療・福祉施設等のサービス面では…

- ・駅周辺における医療施設の更なる充実。文化的活動空間の不足。

■商業施設や商店街は…

- ・商店街は、人通りも多く一定の賑わいもあるが、望まれる店舗や個性的で魅力的な店舗の充実が必要。
- ・駅周辺には大人と子供が安心して遊べる場所が少ない。

■地域資源の活用面では…

- ・成田山不動尊や、淀川河川公園等の地域資源を活かしたまちづくりが必要ではないか。

■住環境面では…

- ・低層木造住宅密集地の住環境の向上が必要である。
- ・まちの緑が少ない。

■住民活動やコミュニティの面では…

- ・マンション等の立地により、地域コミュニティが希薄になってきている

■車や人、自転車の交通面では…

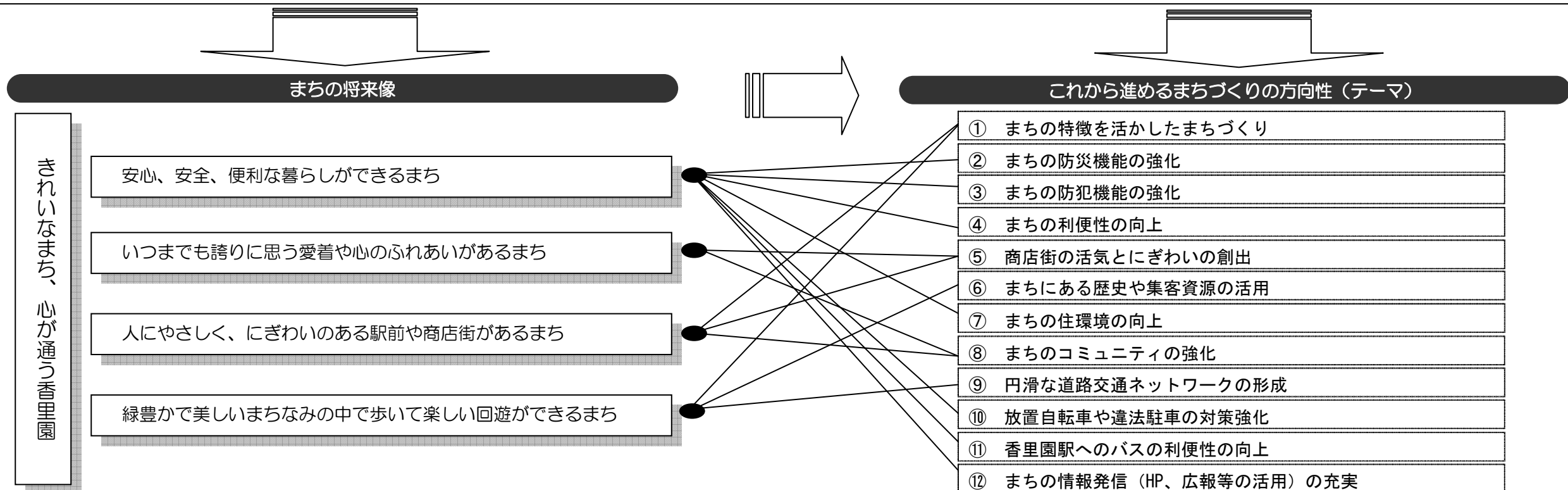
- ・駅周辺では住宅が密集しており、道路幅員が狭い。
- ・歩道が設置されていない道路が多く、歩行者や自転車と車が輻輳し、危険である。
- ・踏切による交通渋滞や、踏切で歩行者や自転車と車が輻輳し、危険である。
- ・駅に近接した駐輪場・駐車場が少ない。
- ・市民の交通に関するモラルやマナーの向上。
- ・駅周辺に外周道路が少ない。

■公共交通面では…

- ・東側駅前広場については、形状が悪く面積も狭いため、進入方向に制約があるなど、十分に機能していない。
- ・バス経路の不足している地域がある。
- ・公共交通（鉄道・バス）利用客が減少してきている。

■市民との協働のまちづくりを進める面では…

- ・まちの情報（公共・民間等）の発信や情報確認手段が不足している。



### 3. まちづくり施策

まちづくりの方向性（テーマ）に基づき、各主体が協力して、次のような具体的な施策・事業等に取り組む必要があります。

#### みんなで進める京阪香里園駅周辺地区のまちづくり施策・事業等（案） —その1—

まちづくりの方向性	まちづくり基本方針	まちづくりの基本方針に基づくまちづくり施策・事業等			
		行政※1	民間企業・商工業者等※2	市民や市民団体	学校（大学・高専等）
<b>① まちの特徴を活かしたまちづくり</b>					
・高低差を活用する。	・高低差を活用した、駅舎の改修を図る。	◆連立事業による駅舎の改修(ア)			
・地域分断を解消する。	・踏切除去や高架下活用などにより東西の地域分断の解消を図る。 ・旧国道170号の道路構造改善による南北の地域分断の解消を図る。	◆連立事業による踏切除去、鉄道高架下空間の整備(ア) ◆連立事業に併せて、旧国道170号の構造改善(イ) ◇地域地区の指定による規制・誘導(ウ)			
・市街地の特徴を活用する。	・開発等への規制・誘導を図る。 ・住環境の保全を図る。	◇駅勢圏内のゾーニングについての考え方 ◇枚方市と連携した活動を図る			
・隣接の枚方市と一体的なまちづくりを推進する。	・枚方市との行政間の連携を図る。				
<b>② まちの防災機能の強化</b>					
・建築物の耐震・不燃化を促進する。	・密集市街地の再生を図る。	◆住宅市街地総合整備事業の推進(イ) ⇨	◆住宅市街地総合整備事業の活用		
・円滑な消防活動が可能な道路網の整備を促進する。	・踏切除去や側道整備、交差道路の改善等による消防車の到達時間の短縮を図る。	◆連立事業に伴う側道の整備(カ)			
・雨水処理機能の強化を図る。	・側道整備等の公共空間の活用による雨水処理機能の強化を図る。				
・防災活動を推進する。	・地域における自主防災活動の充実を図る。	◆防災（避難）誘導案内板の設置 ◇防災活動の促進			
<b>③ まちの防犯機能の強化</b>					
・まちの治安の向上を図る。	・防犯灯などの設置を促進する。 ・地域における防犯活動（防犯対策・体制）の強化を図る。	◆地域における防犯活動（対策・体制等）の促進			
			◆防犯灯の設置		
		◆駅前適所に交番を設置			
<b>④ まちの利便性の向上</b>					
・医療サービスの更なる充実を図る。	・再開発事業により関西医科大学付属香里病院の建て替えを図る	◇再開発事業への支援 ⇨	◆再開発事業区域内での医療施設の充実(カ)		
<b>⑤ 商業等の活気とにぎわいの創出</b>					
・駅周辺は大人も子供も楽しめ、安心、安全で、にぎわいのあるまち・香里園を創る。	・再開発地区内への店舗の設置によりにぎわいを創る。	◇再開発事業への支援 ⇨	◆再開発事業の実施(キ)		
	・高架下等の活用により、魅力の向上を図る。	◆連立事業による鉄道高架下空間の整備(ア) ◇高架下空間に安心生活サポート機能の誘導(ウ)※3 ⇨	◇高架下空間の有効活用		
	・核となるランドマークを創る。		◆ランドマークの整備 ◇商店街（商店）のイベント活動等の実施(ケ) ◇魅力ある施設の立地 ◇一店逸品運動の検討 ◆商店街にアーケードを設置		
	・商店街の魅力の向上を図る。 ・魅力ある施設を立地する。	◇活動の支援 ⇨	◆駅前適所に公衆トイレを設置 ⇨ ◆駅前から商店街への人の誘導を図る駅舎の整備(ア) ◇公衆トイレを美しく保つための管理		
・駅から商店街へ人を誘導する。	・駅舎改修により駅から商店街に誘導を図る。 ・成田山不動尊参拝者の商店街への誘導を図る		◇駅前から商店街への人の誘導活動 ◇成田山不動尊参拝者の商店街への取り込み誘導		
・若者が集まるまちを創る。	・高架下等の活用による文化的活動空間を確保する。 ・駅前広場等に文化的活動空間を整備する。 ・イベント活動等の促進を図る。	◆連立事業による鉄道高架下空間の整備(ア) ◇高架下空間に生活文化創造サポート機能の誘導(ウ)※4 ◆駅前広場等における文化的活動空間の整備(キ) ◇活動の支援 ⇨	◇文化的活動の実施 ◇イベント活動等の実施		

※1 連続立体交差事業に関しては、行政に京阪電気鉄道(株)を含むものとする。

※2 民間企業・商工業者等に再開発事業組合を含むものとする。

※3 安心生活サポート機能：介護・福祉施設、健康づくり施設、託児所等

※4 生活文化創造サポート機能：例えば、イベント展示などの可能な空間、施設等

※(ア)～(ウ)：9頁の表中「主なまちづくり施策・事業等」の記号と同じ内容になります。

みんなで進める京阪香里園駅周辺地区のまちづくり施策・事業等（案） —その2—

まちづくりの方向性	まちづくり基本方針	まちづくりの基本方針に基づくまちづくり施策・事業等			
		行政※1	民間企業・商工業者等※2	市民や市民団体	学校（大学・高等等）
<b>⑥ まちにある歴史や集客資源の活用</b>					
・「香里園」の名前を活かしたまちを創る。	・地域ブランド商品を開発する。		◇地域ブランド商品の開発		
・香里園の魅力資源を活かした回遊性のあるまちを創る。	・道路舗装を改善する。 ・案内サインや休憩施設等を設置する。 ・イベントなどによる文化的情報を発信する。	◆道路舗装の改善(ウ) ◆案内サインや休憩施設等の設置(ウ) ◇活動の支援		◇イベント活動等の実施などによるまちの文化情報の発信	
<b>⑦ まちの住環境の向上</b>					
	・密集市街地の再生を行う。	◆住宅市街地総合整備事業の推進(イ)		◆住宅市街地総合整備事業の活用	
・住環境・景観（老朽化した木造文化住宅等）の改善を図る。	・側道整備等による沿道の建替えの促進を図る。	◆連立事業に伴う側道の整備(オ) ◇側道沿道の不燃化促進の誘導			
	・駅東側は再開発によりまちの再生を図る。	◇再開発事業への支援	◆再開発事業の実施(オ)		
	・美しいまちやまちなみを創る。	◆電柱の撤去と地下埋設設備の整備		◇大学等との連携による美化活動の推進	
・自然の再生や緑化の推進を図る。	・まちの緑化を推進する。 ・公共空間（幹線道路等）への植樹を推進する。	◆駅周辺の都市計画公園の整備(ツ) ◇自然の保全啓発、活動の誘導 ◇公共空間における植樹		◇自然の保全啓発、活動の推進 ◇公共空間の植樹や管理	
<b>⑧ まちのコミュニティの強化</b>					
・地域のコミュニティを育む。	・戸建て住宅や共同住宅の住民を考慮した、近隣との連携や協力を促進する。	◆連立事業により、地域分断要因であった踏切、線路の除却(ア)		◇地域コミュニティの強化	
<b>⑨ 円滑な道路ネットワークの形成</b>					
・歩行者・自転車や車の全てが安全・便利で快適に利用できる交通網、交通環境を創る。	・密集市街地の再生による道路網の整備を図る。	◆住宅市街地総合整備事業の推進(イ)	◆住宅市街地総合整備事業の活用		
	・側道整備による南北方向の交通動線等の改善を図る。	◆連立事業に伴う側道の整備(オ)			
	・高架下における横断道路の新設や集約を図り、交通環境を改善する。	◆連立事業による高架下横断道路整備(ア)			
・渋滞原因である踏切を除去する。	・踏切を除去する。	◆連立事業による踏切除去(ア)			
・歩行者優先の商店街を創る。 ・歩車道分離を促進する。	・高架下等に駐輪・駐車場の整備する。 ・商店街外周に幹線道路を整備する。 ・商店街外周に駐輪・駐車場の整備を図る。	◆商店街外周に連立側道等を活用した環状道路整備（都市計画道路松屋線の整備）(セ) ◆連立高架下等に駐輪場・駐車場の整備(イ)			
	・車両の交通規制の見直しを図る。 ・マナー向上の誘導を図る。	◆商店街道路の歩・車道分離舗装 ◇交通規制の見直し ◇マナー向上の啓発等			
<b>⑩ 放置自転車や違法駐車対策強化</b>					
・利用し易い駐輪・駐車場の整備を図る。	・連立事業における高架下の活用等も考慮し、利用に便利な駐輪・駐車場の配置する。	◆連立高架下を活用した駐輪・駐車場の整備(イ)	◇駅を中心としたレンタサイクル事業の実施		
<b>⑪ 香里園駅の利便性の向上</b>					
・駅東側駅前広場の改善を図る。	・再開発地区内駅前広場の整備を推進する。 ・既存の駅東駅前広場の改修を図る。	◆再開発事業への支援 ◆連立事業に併せて、既存の駅東駅前広場の整備(イ) ◆駅周辺に環状道路網の整備(セ)	◆再開発事業区域内に駅前広場を整備(イ)		
・バスが便利なまちを創る。 （バス利用への転換促進）	・バスサービス充実のための駅周辺道路網の整備を図る。 ・バスサービスの充実を図る。	◇バスサービス充実を図るための、バス路線編成等について事業者との協議	◇バスサービスの充実を図るバス路線編成(イ)		
・南北幹線道路の整備を図る。	・南北幹線道路として側道の整備を図る。	◆連立事業に伴う側道を活用した、南北幹線道路の整備(オ)			
・まちのバリアフリーを促進する。	・歩道等のバリアフリー化を図る。	◆歩道等のバリアフリー整備			
<b>⑫ まちの情報発信の充実</b>					
・まちの各種最新情報の発信を行う。 ・災害状況の把握のため、ハザードマップ等の普及や広報等を行う。	・ホームページや広報等を活用し、まちの最新情報や災害に関する情報等を発信する。	◇適切な情報の提供	◇まちの情報を発信する活動		

※1 連続立体交差事業に関しては、行政に京阪電気鉄道(株)を含むものとする。  
 ※2 民間企業・商工業者等に再開発事業組合を含むものとする。  
 ※3 安心生活サポート機能：介護・福祉施設、健康づくり施設、託児所等  
 ※4 生活文化創造サポート機能：例えば、イベント展示などの可能な空間、施設等

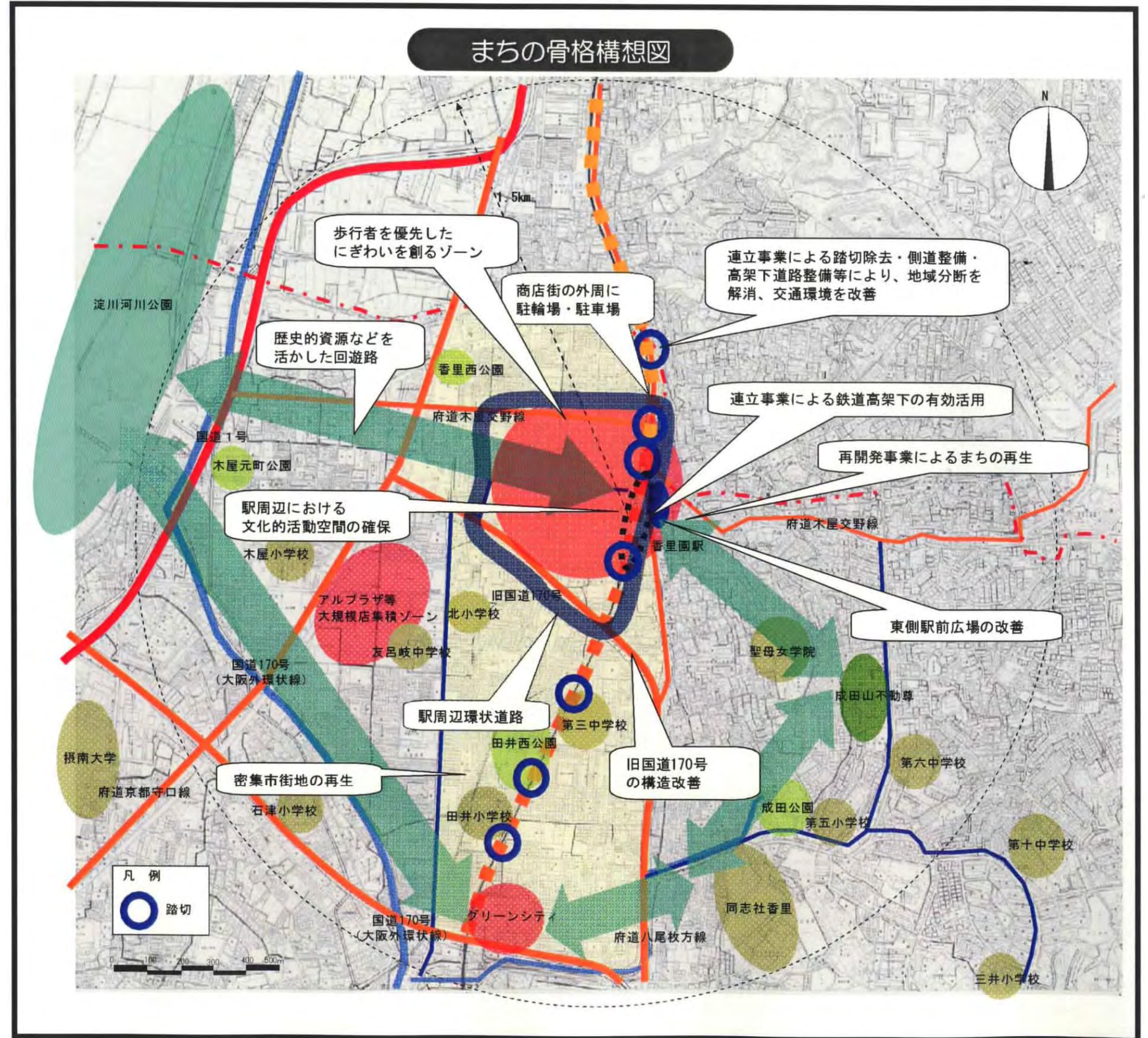
※(ア)～(ツ)；9頁の表中「主なまちづくり施策・事業等」の記号と同じ内容になります。



## 4. まちづくり構想

京阪香里園駅周辺地区の将来像を創る基礎となる“将来のまちの骨格構造”について、次の通り取りまとめました。

- ◇ まちの特徴的な課題としては、地形上に段差があることや、鉄道・幹線道路によって、東西、南北に地域が分断されていることがあげられます。
  - ・ 東西地域の分断については、地形上の課題があるものの、現状では鉄道施設が平面にある事が大きな障害となっていると考えられます。この鉄道施設による地域分断については、連続立体交差事業による鉄道施設の立体交差化を行い、踏切除去や高架下の交差道路整備等により解消します。
  - ・ 南北地域の分断については、旧国道170号が京阪本線を跨線橋にて立体交差している為、沿道の土地利用が図りにくく、道路への乗り入れが限定されるなど、地域分断を感じさせているものと考えられます。このため、連続立体交差事業の実施に併せて、旧国道170号の道路構造の改善を行い、地域の一体感を創り出します。
- ◇ 香里園駅の西側地区では、歩行者が自転車や車と輻輳するといった危険な状況にあります。更に、複雑な交通規制となっており、車の円滑な通行が困難な状況にあります。
  - ・ 歩行者優先のまちを創るためには、西側地区に面的に広がる商店街の外周において、円滑に車を通行させる幹線道路の整備を行い、合わせて、駐輪場や駐車場を設置・誘導することにより、商店街の中への車両の進入を抑制することが可能となり、徒歩による商店街へ来街を促し、歩行者優先のまちを創る事が可能となります。商店街の外周幹線道路としては、都市計画道路松屋線の未整備区間の整備や、京阪本線の連続立体交差事業に伴う側道整備、旧国道170号の構造改善による道路を活用します。また、商店街外周に設置・誘導する駐車場や駐輪場については、外周幹線道路周辺や連続立体交差事業による高架下空間の活用も可能となります。
- ◇ 香里園駅周辺には、成田山不動尊を始めとする、歴史的に由緒のある社寺仏閣や、著名な学校などの歴史・文化的な資源も多く、また、広大な淀川河川公園もあり、これらは人を集めることのできる施設や場所であると考えられます。しかし、これらが十分に活かされていないものと考えられます。
  - ・ これらの資源を活用し、市民をはじめ訪れる人が、これらの資源を楽しみながら回遊できるような、まちの創造を目指します。



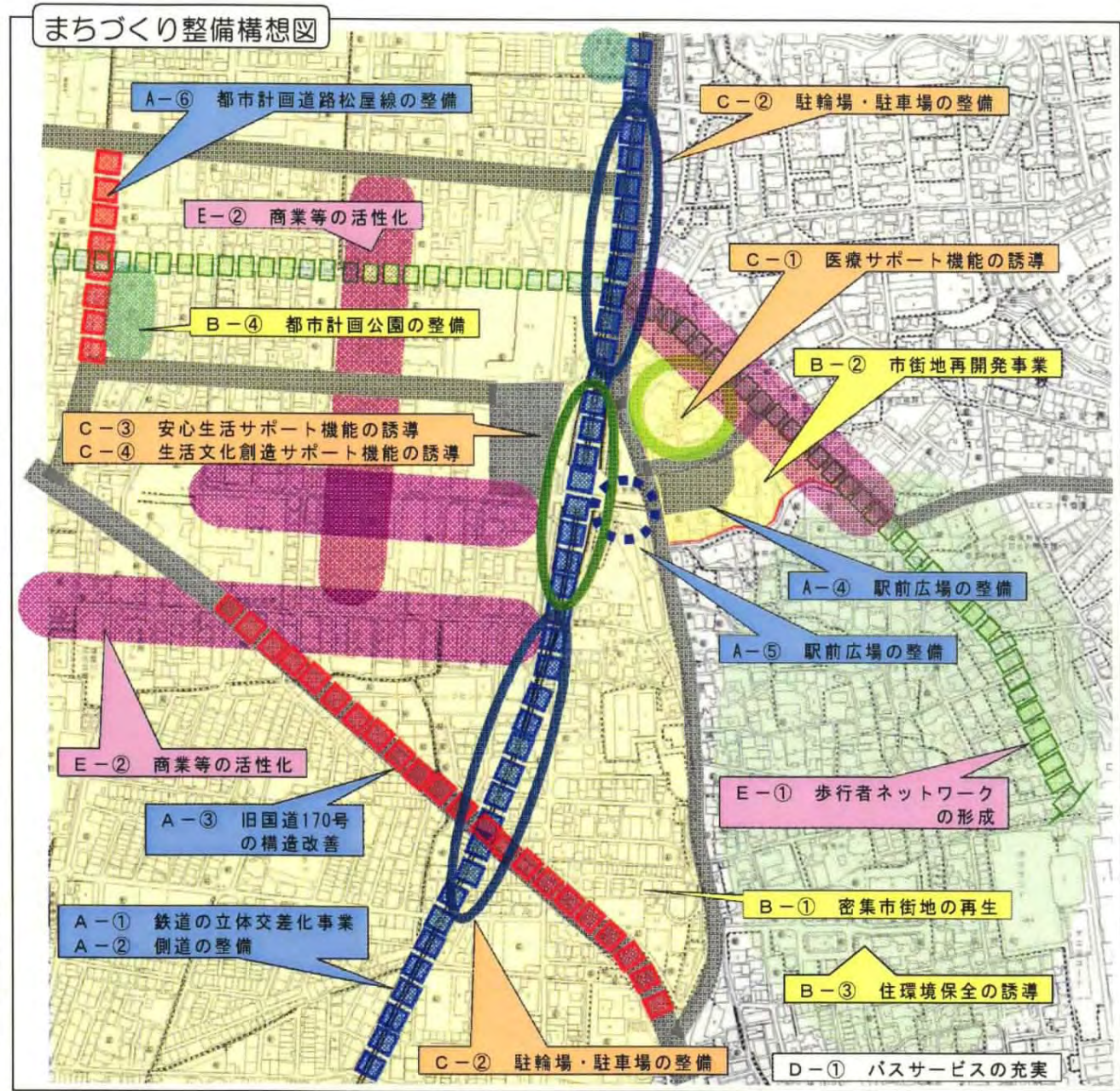


まちづくりの施策・事業等を基に、まちづくり整備構想図としてとりまとめました。

香里園駅周辺における主なまちづくり施策・事業等

	整備方針	主なまちづくり施策・事業等		
A 都市基盤整備	① 鉄道の立体交差化	・連続立体交差事業（踏切除去、駅舎改修、高架下空間の整備）	(ア)	
	② 鉄道の立体交差化に伴う側道整備	・連続立体交差事業に伴う側道整備	(オ)	
	③ 旧国道170号の構造改善	・連立事業に併せて、旧国道170号の構造改善	(イ)	
	駅東地区駅前広場の整備	④市街地再開発事業地区	・再開発事業区域内に駅前広場整備	(ウ)
		⑤東側駅前広場	・連立事業に併せて、既存の駅東駅前広場の整備	(サ)
	⑥ 駅周辺環状道路網の整備	・都市計画道路松屋線の整備	(セ)	
B 市街地環境整備	① 密集市街地の再生	・住宅市街地総合整備事業	(エ)	
	② 駅東市街地再開発事業	・第1種市街地再開発事業	(キ)	
	③ 住環境保全の誘導	・地区計画制度	(ウ)	
	④ 都市計画公園の整備	・駅周辺の都市計画公園の整備	(ツ)	
C 都市機能整備	① 医療サポート機能の誘導	・医療施設の更なる充実	(カ)	
	② 駐輪場・駐車場の整備	・駐輪場・駐車場の整備	(ク)	
	③ 安心生活サポート機能の誘導※1	・高架下空間を活用した安心生活サポート機能の誘導	(ク)	
	④ 生活文化創造サポート機能の誘導※2	・高架下空間を活用した生活文化創造サポート機能の誘導	(コ)	
D バス	① バスサービスの充実	・バスサービスの充実を図るバス路線編成	(チ)	
E 賑わい創造	① 歩行者ネットワークの形成	・道路舗装の改善 ・案内サインや休憩施設の設置	(シ) (ス)	
	② 商業等の活性化	・商店街のイベント活動等	(ケ)	

※1 安心生活サポート機能⇒介護・福祉施設、健康づくり施設、託児所等  
 ※2 生活文化創造サポート機能⇒例えば、イベントや展示などの可能な空間、施設等



その他まちづくり施策・事業等

<p>【まちの特徴を活かしたまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・枚方市との連携を図る</li> </ul>	<p>【商業等の活気と賑わいの創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ランドマークの整備</li> <li>・魅力ある施設の立地、誘導</li> <li>・一店逸品運動</li> <li>・駅前の適所に公衆トイレの設置</li> <li>・商店街にアーケード設置</li> <li>・駅から商店街への人の誘導</li> <li>・成田山不動尊参拝者の商店街への誘導</li> <li>・駅近辺でのイベントや文化的活動の実施</li> </ul>	<p>【まちにある歴史や集客資源の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ブランド商品の開発</li> <li>・イベント活動等のまちの文化情報の発信</li> </ul>	<p>【まちのコミュニティの強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域コミュニティの強化</li> </ul>	<p>【放置自転車や違法駐車対策強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅を中心としたレンタサイクルの実施</li> </ul>
<p>【まちの防災、防犯機能の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災（避難）誘導案内板の設置</li> <li>・防災、防犯活動の促進</li> <li>・駅前の適所に交番を設置</li> </ul>	<p>【まちの住環境の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電柱の撤去と地下埋設設備の整備</li> <li>・大学等との連携による美化活動の推進</li> <li>・自然の保全啓発、活動の推進</li> <li>・公共空間の植樹や管理</li> </ul>	<p>【円滑な交通ネットワークの形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街道路の歩道分離舗装</li> <li>・交通規制の見直し</li> <li>・マナー向上の啓発</li> </ul>	<p>【香里園駅の利便性の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩道等のバリアフリー整備</li> </ul>	<p>【まちの情報発信の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちの情報を発信する活動</li> </ul>



## 5. 今後の取り組みに向けて

まちづくり構想を具体化していくためには、行政だけでなく、今後さらに多くの市民や事業者、学校など、産学公民協働による協議が必要です。

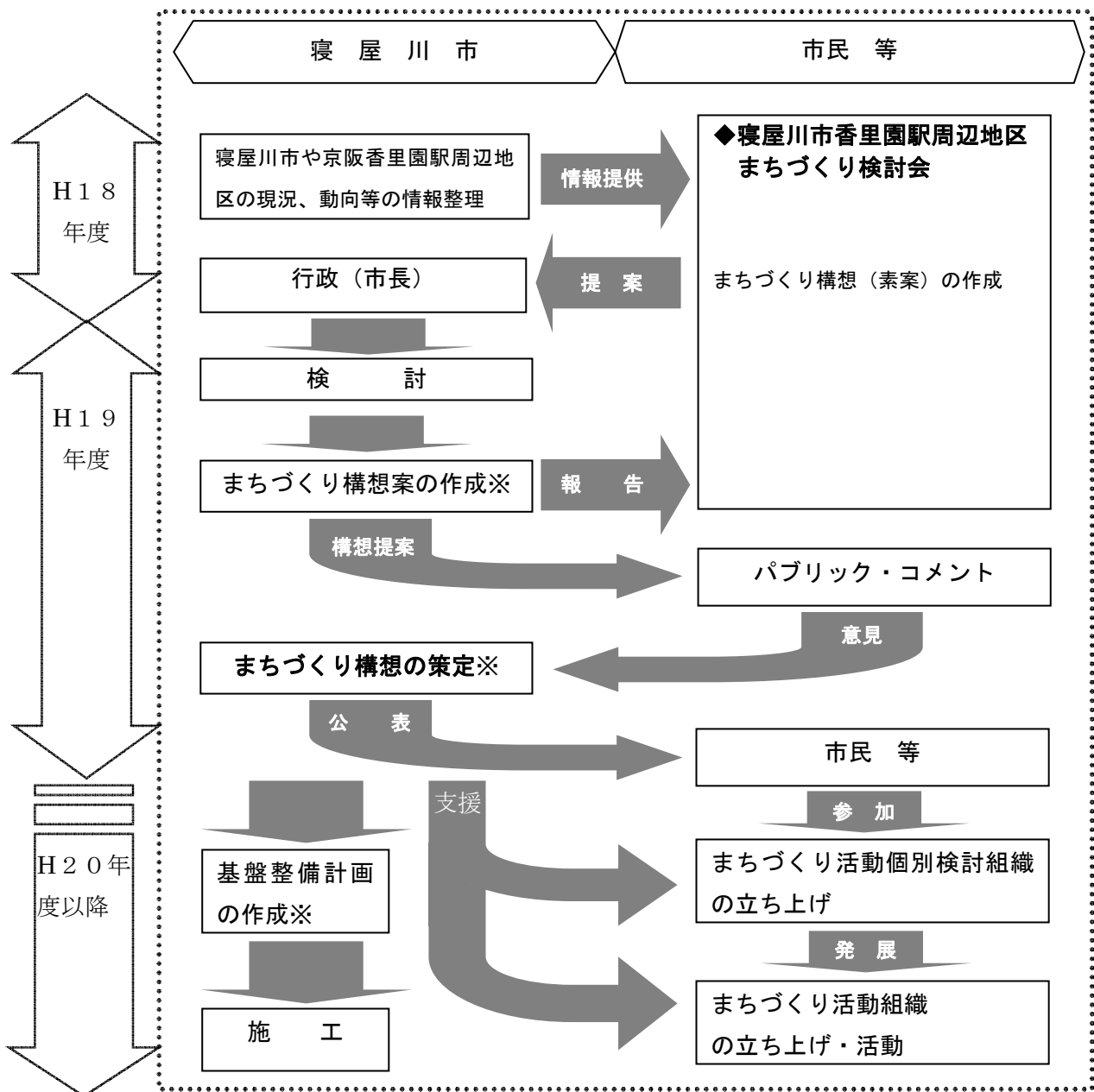
今後は、「まちづくり構想」を基にして、産学公民が連携・協働し、まちづくりを推進する必要があります。

産学公民協働のまちづくりを進めていくうえで、次のような「まちづくりのキャッチフレーズ」を掲げて取り組んでいきます。

＜まちづくりキャッチフレーズ＞

住んでいるあなたが主役のまちづくり

また、これまでの取り組み及び今後の取り組み予定については、下図のとおりです。



※議会への報告を行う

## (参考－１) 構想素案策定の経緯

### ■平成 18 年度の検討経過

	開催日時・場所	検討内容
第 1 回検討会	2006 年 7 月 19 日 (水) 午後 7 時～9 時 西北コミュニティセンター講義室	・香里園駅周辺のまちの特性や課題について
第 2 回検討会	2006 年 9 月 6 日 (水) 午後 7 時～9 時 西北コミュニティセンター講義室	・課題に対するまちづくり方策等の検討
第 3 回検討会	2006 年 10 月 4 日 (水) 午後 7 時～9 時 西北コミュニティセンター講義室	・まちの将来像と産学公民の役割について
事例視察	2006 年 11 月 8 日 (水) 午前 9 時～12 時	・阪急高槻市駅及び J R 高槻駅周辺地区視察
第 4 回検討会	2006 年 11 月 15 日 (水) 午後 7 時～9 時 西北コミュニティセンター講義室	・まちづくり構想素々案の検討
第 5 回検討会	2007 年 1 月 31 日 (水) 午後 7 時～9 時 西北コミュニティセンター講義室	・まちづくり構想素案の検討

### ■検討会におけるワークショップ方式での検討の状況



### ■事例視察の状況 (JR 高槻駅周辺)





(参考-2) 寝屋川市香里園駅周辺地区まちづくり検討会委員

	氏名	所属団体等	備考
学識経験者	高岸 節夫	大阪府立工業高等専門学校建設工学科教授	会長、アドバイザー
	熊谷 樹一郎	摂南大学工学部都市環境システム工学科助教授	アドバイザー
	佐藤 礼華	大阪電気通信大学総合情報学部 デジタルゲーム学科助教授	アドバイザー
地域住民代表	宮藤 政之	香里西之町自治会長 木屋小学校区理事	
	三野 政和	香里南之町自治会長 北小学校区理事	
	馬場 利行	田井西町自治会長 田井小学校区理事	
	村川 彰男	石津元町自治会長 石津小学校区理事	
	北阪 保三	郡元町自治会長 第五小学校区理事	
各種団体代表	大東 豊治	香里園駅東地区市街地再開発組合理事長	
	高田 勝司	寝屋川市商業団体連合会商店連合会副理事長 商店連合会会長 香里ダイエー本通商店街振興組合理事長	副会長
	新井 幸雄	北大阪商工会議所理事	
	月田 眞	香里地区まちづくり協議会会長 緑町自治会長 田井校区理事	
公募市民	井川 晃一	公募市民委員	
	井澤 知美	公募市民委員	
	藤本 正義	公募市民委員	

平成 19 年 3 月末時点

## 一用語解説一

### 【カ】◆跨線橋

鉄道の上をまたぐような形で架けた橋。渡線橋。

### 【サ】◆再開発事業

市街地再開発事業とは、駅前をはじめとする中心市街地内の木造家屋が密集して防災上危険な地区や、駅前広場等の公共施設の整備の遅れている地区の再整備を行うことによって、土地の有効利用を図りながら、活力あふれる豊かなまちづくりを推進する事業です。

#### ◆産学公民

「産」は産業、「学」は大学などの教育研究機関、「公」は公共（一般には公は地方自治体、官は国等の行政機関を意味して使用される）、民は市民、国民を意味します。

例えば、大学と企業、自治体、市民が連携してまちづくりを行う場合などに、“産学公民協働のまちづくり”として「産学公民」という言葉が用いられます。

#### ◆住宅市街地総合整備事業

既成市街地において、快適な居住環境の創出、都市機能の更新、美しい市街地景観の形成、密集市街地の整備改善等を図るため、住宅等の整備、公共施設の整備等を総合的に行う事業です。

### 【ハ】◆ハードとソフト

ハードは、ハードウェア【hardware】の略語で、実際に人間が指で触ったりできるもの。ここでは、鉄道や道路などの構造物や施設のことを指しています。

ソフトは、ソフトウェア【software】の略語で、実際に人間が指で触ったりできないようなもの。まちづくりでは、ハードは、道路や公園などの施設自体を、ソフトは、それを使用する仕方や情報などを意味しています。

### 【ラ】◆ランドマーク【landmark】

その土地の象徴となるような山や高層建築物など、視覚的に目立つものやある特定地域の景観を特徴づける目印なるものです。

#### ◆連続立体交差事業（連立事業）

連続立体交差事業とは、鉄道の一定区間を連続して高架化又は地下化することにより複数の踏切を除去します。一定区間の踏切を同時に除去することにより、踏切による交通渋滞を解消し、平面鉄道による地域分断が解消されます。あわせて地域の発展と生活の利便性が向上する効果もあります。